View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

原著

医療系専門学校生の進学動機と学校適応感

中野　良哉[1)]，中屋　久長[1)]，山本　双一[1)]，山﨑　裕司[1)]，平賀　康嗣[1)]，
片山　訓博[1)]，重島　晃史[1)]，高地　正音[1)]

The relations of student motivation for entering medical school and school adjustment

Yoshiya Nakano[1)], Hisanaga Nakaya[1)], Souichi Yamamoto[1)], Hiroshi Yamasaki[1)], Yasushi Hiraga[1)],
Kunihiro Katayama[1)], Koji Shigeshima[1)], Masato Kochi[1)]

要　旨

本研究では医療系専門学校に在籍する学生の進学志望動機と学校適応感の関連について検討を行った．その結果，まず，医療系専門学校生の進学志望動機として，「無目的・漠然」「適性考慮」「可能性追求」「他律的動機」「専門性追求」の５つの因子が抽出された．次に，学校適応感の関連について重回帰分析を行ったところ，進学志望動機のうち「適性考慮」「専門性追求」が専門学校生の学校適応感を高め，その一方で「無目的・漠然」は適応感を低めることがわかった．また，「他律的動機」と「可能性追求」は学校適応感には関係しないことが分かった．

これらのことから，医療系専門学校を志望する学生への進路指導において「適性考慮」「専門性追求」といった動機付けに焦点を当てるとともに，そうした側面での動機付けを入学後も維持していくような環境作りがその後の学校適応にとって重要となることが示唆された．

キーワード : 学校適応感，進学動機，医療系専門学校生

Abstract

The purpose of the this study was to examine the relationship between medical student motivation to enter medical school and adjustment to the school. Participants were 120 medical school students. Five main factors were extracted from scale of motivation to enter medical school: “Aimlessness or Vague Idea of Career,” “Consider Aptitude for Specific Profession,” “Heteronomous Motivation,” “Possibility Seeking,” “Specialty Seeking.” In order to examine the relation between motivation to enter medical school and adjustment to the school, multiple regression analysis were performed, with motivation to enter medical school as the independent variable, and adjustment to the school as the dependent variable. The results showed that although motivation to enter medical school such as “Consider Aptitude for Specific Profession,” “Specialty Seeking” were positively and “Aimlessness or Vague Idea of Career” was negatively related to adjustment to the school, “Heteronomous Motivation,” “Possibility Seeking” were not related to adjustment to the school. It was suggested that academic and career counseling focus

１）高知リハビリテーション学院　理学療法学科
Department of Physical Therapy, Kochi Rehabilitation Institute.

on student motivation to enter medical school such as “Aimlessness or Vague Idea of Career,” “Specialty Seeking,” could lead to school adjustment.
Key words: School adjustment, Motivation to enter medical school, Medical students

【はじめに】

医療系専門学校を取り巻く環境の１つとして，高校生の進学決定段階で希望職が明確である者はそうではない者に比べて，４年制大学・短大進学を希望しにくく専門学校進学を希望しやすいという指摘[1]がある．一方で，社会環境の変化により多様な価値観を持っている学生の専門学校進学が増えてきている．それに伴い，学校入学後に学校適応上の問題を抱え，進路変更するケースが目立ってきている．

医療系専門職を目指す学生は，国家資格を取得するために専門の教育機関に進学する必要があり，学生が選択した専攻は，そのまま将来の職業に結び付く．また，医療系専門職を目指す学生は，入学と同時に専門職へと自我を同一化させていくことが求められる．その一方で，進学を希望した段階で自分に適した職業を選択したつもりでも，自己の能力や適性の面で授業や演習，実習を通して現実からのフィードバックがはじまることにより，個人と環境との不一致が起こり，進学後の学校への適応感が低まる可能性がある．個人と環境との一致・不一致に着目した先行研究によれば，適応とは個人と環境の調和[2]であり，適応感とは個人が環境と適合（フィット）していると意識すること[3]と定義づけられ，こうした視点は，特に，多様な価値観を持って入学してくる学生の認知や感情を理解する上で有用であろう．

学校適応感に影響する要因の１つとして，進学動機があげられる．音楽大学の学生を対象とした佐藤[4]の研究では，積極的な動機で進学した場合には進学後の適応感は高くなり，消極的な動機で進学した場合には適応感は低くなる可能性があることが示された．心理学科と保育学科の学生を対象とした磯部ら[5]の研究では，保育学科では進学動機が適応感に与える影響が心理学科よりも大きいことが明らかとなった．このように，学生の専攻により進学動機と適応感の関係は異なることが予想される．

一般的な大学への進学動機として，例えば渕上[6]は，高校３年生を対象に，「知識を深め，自分の可能性を求め，興味や趣味を生かせる職に就きたい」，「親の勧め，家族への配慮」，「まだ，社会に出たくない，まわりが進学するので」，「人との出会いやクラブ活動」，「裕福な生活を送る，一流企業に就職したい」という５つの進学志望動機を見出している．

これに対して，医療系専門学校生の進学動機は，上に述べた一般的な大学進学志望動機と一致する面と，異なる面が予想される．一般的な大学進学過程と異なる点としては，専門学校に進学を希望する学生は希望職が明確であり，長尾[1]が指摘するように「自分の能力を具体的な職業技術を身につけることで発現しようとする考え方」が進路選択の根底にあるものと考えられる．このことをふまえると，まず１つめの進学動機として，資格や職業と密接に結びついた特定の分野の中で自己の可能性を追求したいという動機があげられる．この点において，大学進学により職業選択の可能性を広げたい，あるいは，無数の選択肢の中から自分の可能性を求め，自分の興味を見つけたいといった大学進学動機とは異なると考えられる．２つめの動機として，医療系専門学校生の場合，高校の段階で自己の適性を考えた上での進路選択となるため，特定の職種に対する適性があるという自覚が進学の動機となりうる．たとえば，医学的な知識や医療現場で働くことへの興味があるか，様々な病気や障害に対する理解があるか，人とかかわる仕事を厭わないか，といった側面において自己の適性があるという自覚である．次に，医療職の養成は特定の機関に限られるため，医療系専門学校生は入学前の段階から，将来就くであろう特定の職業を意識して進路選択を行わなければならない．よって，３つめの動機として考えられるのは特定の専門職に就きたい，特定の職業に関連した専門性を

深めたいといった，専門性を追求したいという動機があげられる．以上が一般の大学への進学動機との相違点である．

一方，共通点としては，医療系専門学校生においても，まだ社会に出たくないから，ただなんとなく目についたから，といった理由で進学するケースが見受けられるため，そうした漠然とした動機が進学動機となりうる．また，就職率の高さや保護者が同じ職業についていることを理由に，保護者が特定の職業を勧めるため，あるいは家族の希望を叶えるため，経済面での家族への配慮など，他律的な動機による進学も考えられる．よって，医療系専門学校生の４つめの進学動機として，「無目的・漠然とした動機」，５つめとして「他律的な動機」があげられ，これらの動機は一般の大学への進学動機と共通する側面を含むものである．

こうした，一般の大学への進学動機と医療系専門学校への進学動機の共通点・相違点をふまえると，入学後に職業を選択する一般的な大学生と選択した専攻がそのまま将来の職業に結び付く医療系専門職を目指す専門学校生とでは，進学動機と適応感の関連は先行研究で示されたものとは異なる可能性が考えられる．しかし，医療系専門職を目指す専門学校生を対象とした学校への適応感の研究は少ない．そこで，本研究では，進学動機が医療系専門学校生の学校適応感にどのように影響するのかを検討することを目的とする．

【方法】

１．被調査者：被調査者はＡ県内の４年制医療系私立専門学校に在学する学生のうち，本研究の主旨および質問紙への記入に同意した１～４年次生，120名(男性28名，女性92名)であった．

２．調査期間：調査は平成20年10月に行われた．

３．調査内容

１）学校適応感尺度：大久保の青年用適応感尺度[2]を用いた．30項目からなり，「１：まったく当てはまらない」～「５：非常によくあてはまる」の５段階評定であった．

２）進学動機尺度：渕上[6]八木ら[7]や栗山ら[8]磯部ら[5]が作成した大学進学動機の尺度を参考に，医療系専門学校生向けに作成した計33項目からなるものであり５段階で回答を求めた．

４．倫理的配慮：調査用紙は全員に配布し，他の調査の結果との比較のために記名式としたが，調査への参加は自由とし，学校の成績には関係しないことを伝え，研究の主旨に同意を得た上で記入を求めた．

５．分析方法

進学動機尺度については因子分析(Promax 回転)を行った．学校適応感尺度は大久保の尺度構成[2]をもとに下位尺度ごとに合計したものを尺度得点とした．それぞれの尺度の信頼性係数の推定値算出には，クロンバックのα係数を用いた．学校適応感と進学動機との関連については，Pearson の相関係数を算出した．また，目的変数を学校適応感，説明変数を進学動機として重回帰分析を行った．なお，本研究の統計学的有意水準は全て５％未満とした．

【結果】

１．尺度の検討

１）進学志望動機

因子分析の結果，固有値１以上で，５因子が抽出された．第１因子は「自分の可能性をみつけたいから．」「人生の視野を広げたいから．」「自分の本当の生きかたを見つけたいから．」といった項目の負荷量が高いことから，「可能性追求」因子と命名した．第２因子は「現段階では他に何をしてよいか思いつかないから．」「ただなんとなく，目に付いたから．」「他にやりたいことがないから．」といった項目の負荷量が高いことから，「無目的・漠然」因子と命名した．第３因子は「自分の特性・能力を生かすことができると思ったから．」「自分の性格や能力が専門職に向いていると考えたから．」「専門職に関連する分野の学習に向いていると思ったから．」といった項目の負荷量が高いことから，「適性考慮」因子と命名した．第４因子は「親が望む進路だから．」「親のすすめがあったから．」「親が行けと言うから．」といった項目の負荷量が高いことから，「他律的動

表１　進学動機の因子分析結果（重み付け最小２乗，プロマックス回転）

項　目　内　容	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
Ⅰ．可能性追求（α=.88）					
14．自分の可能性をみつけたいから．	0.80		0.11		
15．自分の本当の生きかたを見つけたいから．	0.78				-0.10
16．人生の視野を広げたいから．	0.74		-0.13		0.16
17．幅広い教養を身につけたいから．	0.72		-0.14		0.19
13．自分の能力の限界を試したいから．	0.63				
10．自分にあった職業をさがすため．	0.51	0.16	0.35		-0.19
Ⅱ．無目的・漠然（α=.87）					
4．現段階では他に何をしてよいか思いつかないから．		0.91		-0.14	
2．ただなんとなく，目に付いたから．		0.86			0.20
3．他にやりたいことがないから．		0.81			
1．ただ，なんとなく自分にはやれそうだと思ったから．	-0.12	0.74	0.34		0.21
5．なんとなく決めてしまったから．		0.62	-0.24	0.11	
6．特に目的はないから．		0.52	-0.25	0.18	-0.15
Ⅲ．適性考慮（α=.86）					
7．自分の特性・能力を生かすことができると思ったから．			0.93		-0.17
8．自分の性格や能力が専門職に向いていると考えたから．			0.87	0.13	
9．専門職に関連する分野の学習に向いていると思ったから．	0.10		0.65		0.12
11．専門職の考え方は自分に合っているから．	0.16		0.57	-0.17	
12．専門職に必要な能力に気づくことが出来たから．	0.35		0.45		
Ⅳ．他律的動機（α=.88）					
18．親が望む進路だから．		-0.17		0.96	0.11
20．親のすすめがあったから．	-0.11		0.13	0.86	0.10
19．親が行けと言うから．			0.11	0.79	
21．特に自分の意志ではないから．	0.19	0.21	-0.19	0.58	-0.10
Ⅴ．専門性追求（α=.79）					
23．専門職につきたいから．			-0.12		0.90
24．国家資格，学位，免許状などを取得したいから．		0.29		0.10	0.78
22．専門的な知識や技術を身につけたかったから．	0.17			-0.13	0.63
累積寄与率（%）	35.69	49.73	57.81	64.73	69.68

機」因子と命名した．第５因子は「専門職につきたいから．」「国家資格，学位，免許状などを取得したいから．」「専門的な知識や技術を身につけたかったから．」といった項目の負荷量が高いことから，「専門的価値の追求」因子と命名した．各因子ごとに内的整合性について検討を行った結果，信頼性係数αは，第１因子.88，第２因子.87，第３因子.86，第４因子.88，第５因子.79であり，内的一貫性が確認された（表１）．

２）学校適応感尺度

学校適応感尺度について信頼性係数の推定値を算出したところ，「居心地の良さ」α=.81，「課題目的の存在」α=.82，「被信頼感」α=.88，「劣等感のなさ」α=.88となり，内的一貫性が確認された．

２．進学志望動機と学校適応感の関連について

進学志望動機と学校適応感の関連について Pearson の相関係数を求めたところ，進学志望動機の「適性考慮」，「可能性追求」，「専門性追求」は学校適応感の「居心地の良さ」「課題目的の存在」「被信頼感」と有意な正の相関を示し，「劣等感」とは負の相関を示した．また，「無目的・漠然」は「居心地の良さ」「課題目的の存在」「被信頼感」と負の相関を示し，「劣等感のなさ」と正の相関を示した．「他律的動機」は「課題目的の存在」「被信頼感」と負の相関を示した（表２）．

次に，進学志望動機と学校適応感の関連について重回帰分析を行ったところ，「無目的・漠然」とした動機については，学校適応感の「課題目的の存在」

表２　学校適応感と進学動機の相関

	可能性追求	無目的・漠然	適性考慮	他律的動機	専門性追求
居心地の良さ	0.28 **	-0.31 **	0.45 **	-0.15	0.33 **
課題目的の存在	0.43 **	-0.47 **	0.49 **	-0.30 **	0.42 **
被信頼感	0.39 **	-0.32 **	0.35 **	-0.28 **	0.41 **
劣等感のなさ	0.19 *	-0.18 *	0.31 **	-0.07	0.18 *

*p ＜0.05，**p ＜0.01

表３　学校適応感と進学動機の関連（重回帰分析結果）

説明変数＼目的変数	居心地の良さ	課題目的の存在	被信頼感	劣等感のなさ
可能性追求	-0.15	0.06	0.10	-0.04
無目的・漠然	-0.17	-0.28 ***	-0.12	-0.09
適性考慮	0.40 ***	0.28 **	0.13	0.28 *
他律的動機	0.05	-0.04	-0.10	0.05
専門性追求	0.22 *	0.17	0.22 *	0.08
調整済み R2 乗	0.23 ***	0.35 ***	0.21 ***	0.06 *

*p ＜0.05，**p ＜0.01，***p ＜0.001

に対して有意な負の影響（β=-.28,p ＜.01）が認められた．「自己の適性考慮」については「居心地の良さ」（β=.40，p ＜.01）や「課題目的の存在」（β=.28，p ＜.01），「劣等感のなさ」（β=.28，p ＜.05）に対して有意な正の影響が認められた．「専門性追求」については，「居心地の良さ」（β=.22，p ＜.05）や「被信頼感」（β=.22，p ＜.05）に対して有意な正の影響が認められた（表３）．

【考察】

医療系専門学校生の進学志望動機と学校適応感の関連について検討を行った．まず学校適応感を低める要因として，無目的・漠然とした動機は，学校適応感の課題目的の存在を低めることが分かった．医療系専門学校では，臨床実習や国家試験に向けて，明確な課題が存在するはずであるが，はじめから漠然とした動機で入学した学生は，入学後も与えられた課題を自分の課題として認識しづらく，結果として課題目的の存在について低い適応感を抱くのかもしれない．学校適応感を低めるもうひとつの要因として，当初，他律的動機を予想していたが，大学生を対象とした先行研究とは異なり，本研究において他律的動機は学校適応感とは関係しないことが分かった．これは恐らく，今回の調査対象者に２つの異なるケースが混在していたために，他律的動機と学校適応感との間に，はっきりとした関係が示されなかった可能性が考えられる．１つめのケースは，本人の意志ではなく，まわりからの強い勧めにより進学し，適応感が低い学生である．２つめのケースは，本人の強い意志で進学していなかったとしても，家族に医療・福祉関係の仕事に従事している者がおり，家族からの精神的・経済的支援が十分になされているため，適応感が低まることがない学生である．近年の医療系専門課程の学生の家庭的背景を分析すると，経済情勢の変化により，２つめのケースの特徴にあてはまる学生が一定の割合を占めるようになったことから，医療系専門課程では他律的動機が必ずしも低い適応感には結び付かない可能性が考えられる．この点については，学生のソーシャル・サポートの現状を含めた詳細な分析が必要である．

次に，学校適応感を高める要因として，自己の適性考慮は，居心地の良さや課題目的の存在，劣等感のなさを高めることが示された．自己の適性を考慮するという側面が最も強い影響を及ぼす点で，保育学科と心理学科の大学生を対象とした磯部ら[5)]が示した進学動機３因子（「社会的地位」「自己興味」「資格」）と適応感との関係とは異なる結果が示された．特に，特定の専門職への適応が強く求められる医療系専門学校生にとっては，進学の段階で，その専門分野についての適性があると判断できていることが，入学後，環境と適合しているという意識を持つことに強い影響を与えていることがわかった．また，専門性追求も，居心地の良さや被信頼感との関係が見られ，自分が追求したいと思う専門性と環境が適合することで，居心地の良さを感じ，信頼されていると感じることがわかった．

一方で，進学動機の可能性追求は学校適応感と関係しないことが分かった．可能性追求に関連する項目には，「人生の視野を広げたいから」「自分の本当の生きかたを見つけたいから」が含まれており，専門性を深く追求したいという動機とは異なり，大学生の進学動機と共通した，自己の能力に対する試行，興味関心の追求をしたいという動機が含まれる．そのような動機は，入学後の専門性の追求が求められる環境との適合には直接関係しないのかもしれない．

今後の課題として，学校適応感に影響を及ぼすと考えられる学校生活の要因，例えば友人関係，対教師関係，学業の状況についても検討を行う必要があるだろう．大学生を対象とした磯部らの研究では，取得できる資格と就職が結びついている学部の学生と，そうではない学部の学生を比較した結果，前者は進学動機と友人関係が適応感に大きな影響を及ぼし，後者は学業と教師との関係が学校適応感に影響を及ぼすことを示した[5)]．このように，学科ごとに学校適応へのプロセスが異なることをふまえ，学校生活と学校適応感との関連を分析する必要があるだろう．また，大久保が指摘するように，適応が個人の特徴だけでなく，環境との適合性によって規定されている[9)]と考えるならば，学校環境の個人に対する要請がどのようなものであるか，そのあり方を変えることで適応感は高められ得るのかについても調査を行う必要がある．

【文献】

1）長尾由希子：専門学校への進学希望にみるノン・メリトクラティックな進路形成．（東京大学教育学部比較教育社会学コース Benesse 教育研究開発センター 共同研究　都立高校生の生活・行動・意識に関する調査報告書）--（学習に対する意識と進路決定）研究所報49：109-125，2009．

2）大久保智生：青年の学校への適応感とその規定要因―青年用適応感尺度の作成と学校別の検討―．教育心理学研究53(3)：307-319，2005．

3）大久保智生，青柳　肇：大学生用適応感尺度の作成の試み－個人－環境の適合性の視点から－．パーソナリティ研究12：38-39，2003．

4）佐藤典子：音楽大学への進学理由の認知と進学後の適応について．教育心理学研究49：175-185，2001．

5）磯部有希，上村佳世子：大学への進学動機と学校適応感との関連．文京学院大学人間学部研究紀要9(1)： pp.51-61，2007．

6）渕上克義：進学志望の意思決定過程に関する研究．教育心理学研究32(1)，59-63，1984．

7）八木晶子，齊藤貴浩・他：高校生の大学進学動機と進学情報の有用度との関連に関する分析．進路指導研究20(1)：１-８，2000．

8）栗山直子，上市秀雄・他：大学進学における進路決定方略を支える多重制約充足と類推．教育心理学研究49：409-416，2001．

9）大久保智生，加藤弘通：青年期における個人-環境の適合の良さ仮説の検証　学校環境における心理的欲求と適応感との関連．教育心理学研究53(3)：368-380，2005．